

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 光薫福祉会	代表者	小林 正信	法人・ 事業所 の特徴	ご利用者の方が、住み慣れた地域で安心した生活が送れる様、一人一人の生活スタイルに合わせた「通い」・「訪問」・「宿泊」を柔軟に対応し、これからも自宅での生活が継続出来る様可能な限りの支援を行い、ご家族の介護負担や精神的な負担の軽減を考慮し、医療連携、地域の連携に努め、一日でも長く自宅で一緒に生活出来る様支援させていただきます。
事業所名	ビハーラ豆田	管理者	濱野 京子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	0人	1	1人	0人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評の確認	今年度は、施設外研修が出来ず前年度同様、施設外研修後ミーティングにて、施設の取り組みを話し合える様議題にいれる。	コロナ禍の為、施設外研修が実施出来なかったが、身体拘束関連の取組を年間通して実施。また、職員の熟達に応じてオンライン研修を実施。	改善計画を掲げても、利用者の意見を聞く事が難しいと思います。また、コロナ対策の兼ね合いもあり出来ない事が多いと思います。	課題として職員間でリスクマネジメントの統一が出来ていなかった為、入浴、排泄等のリスク予測を毎月確認し全職員で周知する。
B. 事業所のしつらえ・環境	職員会議前の施設外の清掃を行う際、草の長くなっている所から行う様に気を付ける。	敷地内の清掃は、雑草が伸び茂っている個所から優先的に行う様に心掛けた。	運営推進会議等で2ヶ月に1度しか事業所に伺わない方は、違和感があると思います。また、垣根が高くなると事業所を隠している様に感じる。草花を植え、利用者と育てる事は一緒に楽しめ良いです。	玄関に草花を植え、事業所に訪問し易い工夫をする。垣根の剪定は適時行う。
C. 事業所と地域のかかわり	介護者教室の開催日、内容を事業所広報誌に掲載する。介護者教室、スクールガードは継続し、地域のゴミ拾いは、河川の土手の方を行う。	コロナ禍で今年度も、介護者教室は実施出来なかったが、スクールガード、地域のゴミ拾いは予定通り実施。また、タバコの吸い殻は落ちていたが、ゴミは少なかった。	ゴミが少ない様であれば、年間2回の実施を1回に減らし、もう1回を別の取り組みを行う等はどうでしょうか？コロナ禍でもありますので、今は難しいですが、地域のサロンに出向いて交流を図る等改善計画は実行出来ていると思います。	運営推進会議を通じて港町、丸の内町の自治会長、民生委員に草花の設置箇所を尋ね、利用者と一緒にプランターに花を植え付け、設置する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今年度も必要時に地域包括や市に会議の場所提供を行う。又、竹灯籠まつりの竹飾りに利用者と参加する。	地域包括と連携を図り、利用者の情報共有に努めている。また依頼時には、会議室として部屋を提供した。竹灯籠の明かり点けは、行事が中止となり実施していない。	外出などの制限はあると思いますが、近所の散歩等できる限りの取り組みを続けてほしいです。評価書式内容をコロナ禍前提とした内容に出来るとよいですが。	利用者にオレンジカフェ（認知症カフェ）に参加して頂く。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	<p>継続し運営推進会議にて、小規模多機能型のサービス内容を事例として報告し、理解を深めて頂く。</p>	<p>運営推進会議の中で、利用者のサービス内容の事例報告を行い、事業所の理解を深めて頂いた。</p>	<p>地域住民の事例検討は、役立っている。コロナの影響で書面開催もありましたが。対面での会議は、十分な感染対策がなされている環境で事例の検討等が行われていました。</p>	<p>地域の困りごとや心配な事案があれば、運営推進会議の中で協議する。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<p>運営推進会議にて、災害マニュアルを説明し、地域と事業所でお互いに協力出来る内容を協議する。</p>	<p>運営推進会議を利用し、災害マニュアルの説明を行った。事業所として協力できる内容の話は出来た。</p>	<p>防災訓練を運営推進会議の前後に組み合わせて開催するのも良いかなと思います。地域の防災訓練に参加出来ていれば回数や内容を教えて下さい。</p>	<p>災害時、小規模多機能の浴室を住民に解放し使用して頂く。</p>